

帰国 J I C A 海外協力隊員 10 名に対する感謝の言葉(3月16日)

約2年間の J I C A 海外協力隊員としてのマラウイ勤務、大変お疲れ様でした。皆様それぞれが、かけがえのない経験をされたことと思います。やりとげた達成感、職場の同僚の方々と分かれる寂しさ、目の前の世界が大きく広がった実感、自分に対する自信、本当に役に立ったのだろうかという不安、貴重な経験を日本で役立てたいと思う気持ち、もっと学びたいという気持ちもあると思います。とてもひとことで言葉にできない万感の思いがあると思います。

厳しい生活環境のなか、皆さんひとりひとりのご苦勞に心より感謝申し上げます。様々な悩みや葛藤もあったかと思えます。ひとつひとつ乗り越えながら、皆さんの真摯な活動を通じてマラウイの方々に日本人の素晴らしさ、日本という国の素晴らしさを感じてもらったものと確信しています。

在マラウイ日本国日本大使として着任して2ヶ月となり、大統領、副大統領、多くの大臣の方々にご挨拶してきましたが、この中で J I C A 海外協力隊への感謝の言葉がなかった方はひとりもありません。隊員から理数科を学んだという大臣、仲良くなった隊員の名前を今も覚えている大臣、今の自分があるのは協力隊員のおかげだと言われた大臣もいました。しかもこれは決して社交辞令ではなく、みな隊員にめぐりあえ直接指導を受けたことを嬉しそうに誇らしく語っていました。皆様がそれぞれの職場で関わった方々達も、長く皆さんとの絆を忘れることがないと思います。

本で行われた帰国隊員最終報告会も少し拝見させて頂きました。現場での様々な発見と提案は示唆に溢れていました。J I C A 事務所とともに今後の事業に活かすよう調整して参りたいと思います。皆様の逞しい前向きなパワーと真摯な姿勢に深い敬意を表します。

そして安全且つ健康な任務終了に安堵しています。J I C A ボランティア調整員、健康管理員、J I C A 事務所の不断の尽力と配慮の賜物であり、関係者の方々にあわせて心より御礼を申し上げます。

ですが、終わりははじまりです。J I C A 海外協力隊のマラウイ隊員という舞台はこれで幕を閉じるかもしれませんが、次なるチャプターのはじまりです。誇るべき凱旋帰国のあとにはじまる大切な門出でもあります。

そこで後ほど小さなダルマを進呈します。着任する隊員の方々には、片目を入れ抱負を書いて頂いています。帰任される皆様には、よろしければ今の達成感とともにマラウイ隊員として刻みたいことば、今後も忘れたくないひとことをダルマのうしろに書いてそばにおいて頂ければと思います。

皆様はそれぞれの道を歩むこととなります。前の職場に戻る方、大学院で勉強される方、新しい職場にチャレンジされる方。他の国で活動される方、マラウイに戻ってこられる方もおられると思います。日本に戻って、マラウイのこと、the Warm Heart of Africa の真の意味を、Umuntu の思いやりの気持ちなどを広め、日本人が人間としての前向きな生き方を学べる国であることを伝えて下さい。皆様がマラウイでの経験を活かして、日本や世界で活躍されるのを応援しています。

皆さんのかいた汗の分だけ、流した涙の分だけ、マラウイと日本の距離は着実に近くなりました。そのことは皆さんがいま実感されていることと思います。

本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

(了)